製本のススメ　Vol. 36

毎月　請求書に同封しております「製本のススメ」もリニューアルしてから36回目を迎えました。この1枚が、皆さんのお役に立つ事を願いつつ今回もお送りします。

今回はトンボのお話

印刷と製本の間には、**効率よく作業を進める為のルール**があります。その一つがトンボです。この業界に居て【トンボ】と聞いたら空飛ぶ虫を思い浮かべる人はいないと思いますが、このトンボには印刷用につけるものと、その後の加工用に付ける物がありますよね。いずれもこのトンボの位置を基準にして、印刷や製本等の加工等が行われる印であり**製作者の意図を表現する極めて大切なもの**です。

しかし、最近は「トンボは当てにしないで下さい」と言うものが頻繁に現れています。また 1 枚の用紙にA4用とB5用のトンボが印刷してあったり（まるでレイアウト用紙ですね）これでは、加工をするときに、何を基準にしてよいのかわかりません。
さらに　トンボの位置が規格サイズの位置に印刷してあるのに、実際は規格サイズでないと言う事や、用紙の表と裏でトンボの位置が違うなど、様々な事が出ています。

製本会社では、あらゆる印刷所から印刷物が持ち込まれる事が通常ですが、全てこのトンボを頼りに作業が進むことが基本です。作業指示が無くても、このトンボがあれば、何の心配もなく進んでいくほどです。

複写伝票のように、何枚も重ねて使うような印刷物では、特に注意が必要です。
用紙が伸びて、印刷前と後ではトンボの位置が違ってしまうことも多く発生してしまい全く　使い物にならない事も多く発生しています。

コンピュータが普及して、データとして印刷会社へ持ち込まれる物が増えたのも、原因の一つかも知れませんが、機械がどんなに進歩しても、このルールは変りません
赤信号を無視して安全に交差点を通過することなど、出来ないのと同じです。
無事に本になったのは、運が良かった（？）と思うべきでしょう。

もう一度　共通のルールを勉強・確認するのも、大切な事柄ですね。あなたはこのルール覚えているでしょうか？**左開きの本は【天袋】右開きならば【ケシタが袋】**です
念仏のように唱えて、ぜひ暗記体得してくださいね。

Teabreak

水戸黄門といえば、助さん格さんを従えての諸国漫遊旅、ここぞとばかりに出す印籠は効果絶大ですね。でも水戸光国なのに、なんで黄門なのでしょうか？この[黄門]は中納言という官名の別称だそうです。中納言光国公と呼ぶのが正しいのかもしれませんね。

by（株）井関製本